

●平成11年度行事案内

歴史資料館では平成11年度に次のような行事を開催します。各展示会の内容と各種講座の募集要綱は随時市報でお知らせします。多くの方のご来館・ご参加をお待ちしております。

秋の特別展

光君の物語—源氏絵の世界

会期 平成11年10月23日～11月28日

資料館では、桃山時代末（16世紀初）狩野派の絵師によって描かれた源氏物語絵を23面所蔵しています。この特別展ではこの源氏絵を中心に、桃山時代から江戸時代前期までの源氏物語に題材をとった絵画や工芸品を展示します。金箔でふちどられ、四季の花が咲き乱れる画面の中で、光源氏とその子供たちが織りなす王朝貴族恋物語の世界を堪能していただきたいと思います。

テーマ展示

I. 南蛮交流史

会期 平成11年4月24日～6月27日

II. 柞原さんのお祭—賀來の市と浜の市

会期 平成11年7月3日～平成11年9月26日



源氏物語絵 巻2 帚木



源氏物語絵 巻40 御法

III. 地図にみる昔の大分—近代地図を中心に

会期 平成11年12月4日～平成12年1月30日

IV. 大分の先人—賀來飛霞・後藤碩田・滝廉太郎

会期 平成12年2月5日～3月31日

各種講座

■ふるさとの歴史再発見

①歴史のコース 平成11年4月～6月（計9回）

②考古のコース 平成11年7月～9月（計9回）

③民俗のコース 平成11年11月～12月（計6回）

④古文書のコース 平成12年1月～3月（計9回）

日時 毎月1・2・3土曜日 14時～15時30分

対象 高校生以上 定員 70名 受講料 無料

■ジュニア歴史講座

期間 8月上旬（4日間）

対象 小・中学生

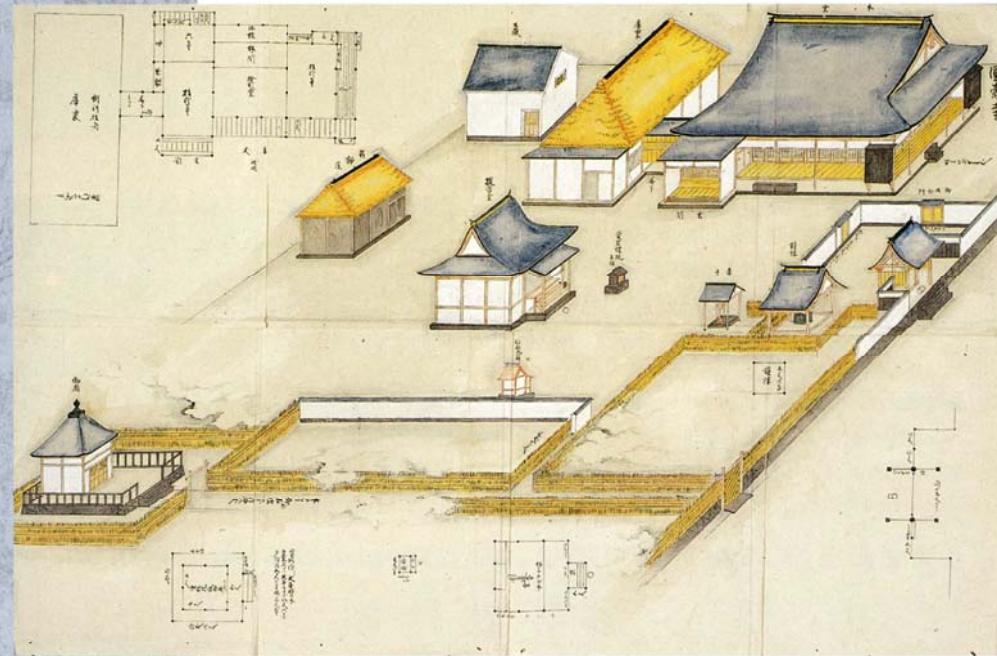
内容 本物の資料に触って、体験しながら歴史を学ぶ講座です。

■映像でつづる歴史への旅・ミュージアムシアター

日時 毎月第4日曜日

11時・13時・15時の3回上映

内容 日本の歴史や文化を紹介する映画やビデオを上映します。



●編集後記

この3月、水かき調査のため賀來地区の水田を歩き回っていました。そこで目にしたのは水に対する執念ともいえる工夫と配慮です。大きな水路の上を小さな用水が立体交差したり、水路の両端を別の小さな水路が走っていたり。いまでこそ、セメントやパイプで簡単にできるのですが、資材が乏しかった時代、用水路を維持するのはさぞ大変だったことでしょう。

資料館ニュース No.46

発行 1999.3.31

大分市歴史資料館

大分市大字国分960番地の1
〒870-0864 ☎(097)549-0880

賀来地区水田水かかり調査

資料館が実施しています「府内及び大友氏関係遺跡総合調査」事業では、昨年度から賀来地区を対象にした調査を行っています。賀来地区は横穴式石室をもつ丑殿古墳や千代丸古墳があり、条里遺構も残るなど古代から開発が進んでいた地区です。また、中世には豊後一の宮作原八幡宮の荘園－賀来荘となっており、地区に鎮座する賀来神社には年に1度作原八幡宮から武内宿称命がお下りされるなど、作原八幡宮と深い関係にあった地区でもあります。

今年度は、賀来地区でも大字賀来・東院・宮苑・中尾を対象に、明治時代の土地利用状況の復元と水田の水かかり調査を行いました。土地利用状況復元では明治22年田字図の情報をもとに田・畑・宅地・山・藪などの種別ごとに色分けし、それを1万分の1の地図に記入し、景観復元の基礎材料とすることができました。水かかり調査では調査地内の水田1枚ごとにどのような経路で用水が引かれているかを歩いて調べ、2500分の1の地図に書き込んで行きました。その成果は調査研究年報で詳しく報告していきますが、賀来荘研究の基礎データをえることができたといえるでしょう。



水かかり調査風景



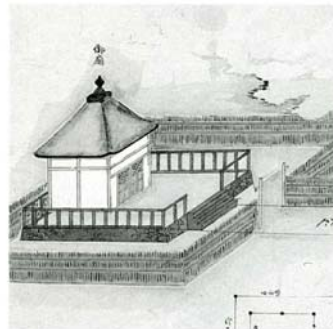
大字宮苑宇曾谷川からの取水口

● 表紙紹介

えんじゅじえす 圓寿寺絵図

圓寿寺は市内上野丘西にある天台宗寺院です。鎌倉時代末の徳治2年(1307)豊後守護大友貞宗が延暦寺の道勇和尚を招き、崖下にあった岩屋寺を移して開いたと伝えられます。以後、「六坊二院」とよばれた数々の塔頭が並び立ち、江戸時代初め豊後国の天台宗総本山と位置付けられました。絵図に描かれた同寺は「六坊」中の東井坊跡といわれ、現在地と一致します。中世には守護大友氏が庇護し、歴代府内藩主では日根野吉明(在任:1634~56年)が特に崇敬したといわれています。愛宕権現は府内の守護神として彼が創建したといわれ、境内の一角には、絵図にも描かれている霊廟がいまも建っています。

安政4年(1857) 松栄神社蔵 当館寄託



日根野吉明の霊廟

しょうえいじんしゃ 松栄神社所蔵の寺社絵図

2月6日から3月28日まで今年度第4回テーマ展「府内の寺と社」を開催しました。このテーマ展では絵図と各種の資料から、江戸時代府内にあった寺社の様子を再現してみました。展示した寺社絵図のほとんどは、実は市内荷揚町にある松栄神社の所蔵品で、資料館で寄託を受けているものです。今回はこれら寺社絵図を含め、松栄神社所蔵の古絵図(リスト参照)を紹介することにしましょう。

絵図は、描き方や、必ず余白に各建物の平面図が書き込まれる点など共通性があり、統一的に作製されたことが窺えます。これらの絵図が納められていたと思われる木箱の蓋には「安政四丁巳年 御普請所 寺社図面入 五月日」との墨書きがあります。これからしますと、これらの絵図は江戸時代も終わりに近い安政4年(1857)に府内藩の「御普請所」つまり建築工事を管轄する普請方で一括して作製されたと考えて間違いのないでしょう。では、なぜ普請方で安政4年に絵図が作られたのでしょうか。

まず、描かれた建築物の性格を考えてみましょう。船入倉や御茶屋などは藩の公的施設です。寺社関係では、松栄山は藩主大給松平氏の祖霊を祭った場所ですし、浄安寺は藩主の菩提寺、福寿院は祈願寺、久松庵は初代藩主忠昭の生母の菩提寺です。他の寺社は上記の寺ほど直接的ではないにしろ、歴代藩主

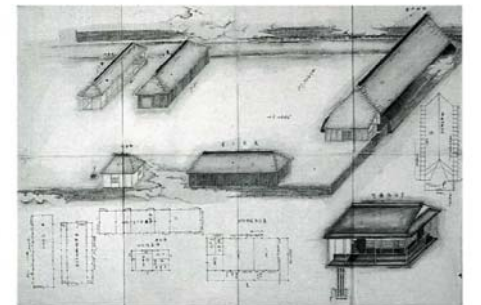
が崇敬していました。藩の施設や藩主に直接つながる寺社の修築は当然普請方の管轄下であり、それ以外の寺社も普請方が関与していたと考えられます。

さて、絵図が作られた3年前の安政元年11月5日夕刻府内城下を大地震が襲いました。藩主邸宅をはじめ城内の過半が破損し、城下町屋の6割が大破してしまいました。ちょうど春日浦御茶屋に出かけていた藩主近衛は帰る場所を失い、その日は野宿し、大手廊下橋前に仮設小屋を建てて移るといふありさまでした。絵図に描かれた施設や寺社も被害を受けたはず。例えば浄安寺は12月23日仮堂の建設に着手し、29日に完成し、修理された本尊をこれに安置しています。1週間足らずで完成しているのですから、この時建てられたのは文字通り仮堂で、本格的な再建はその後行われたと考えられます。

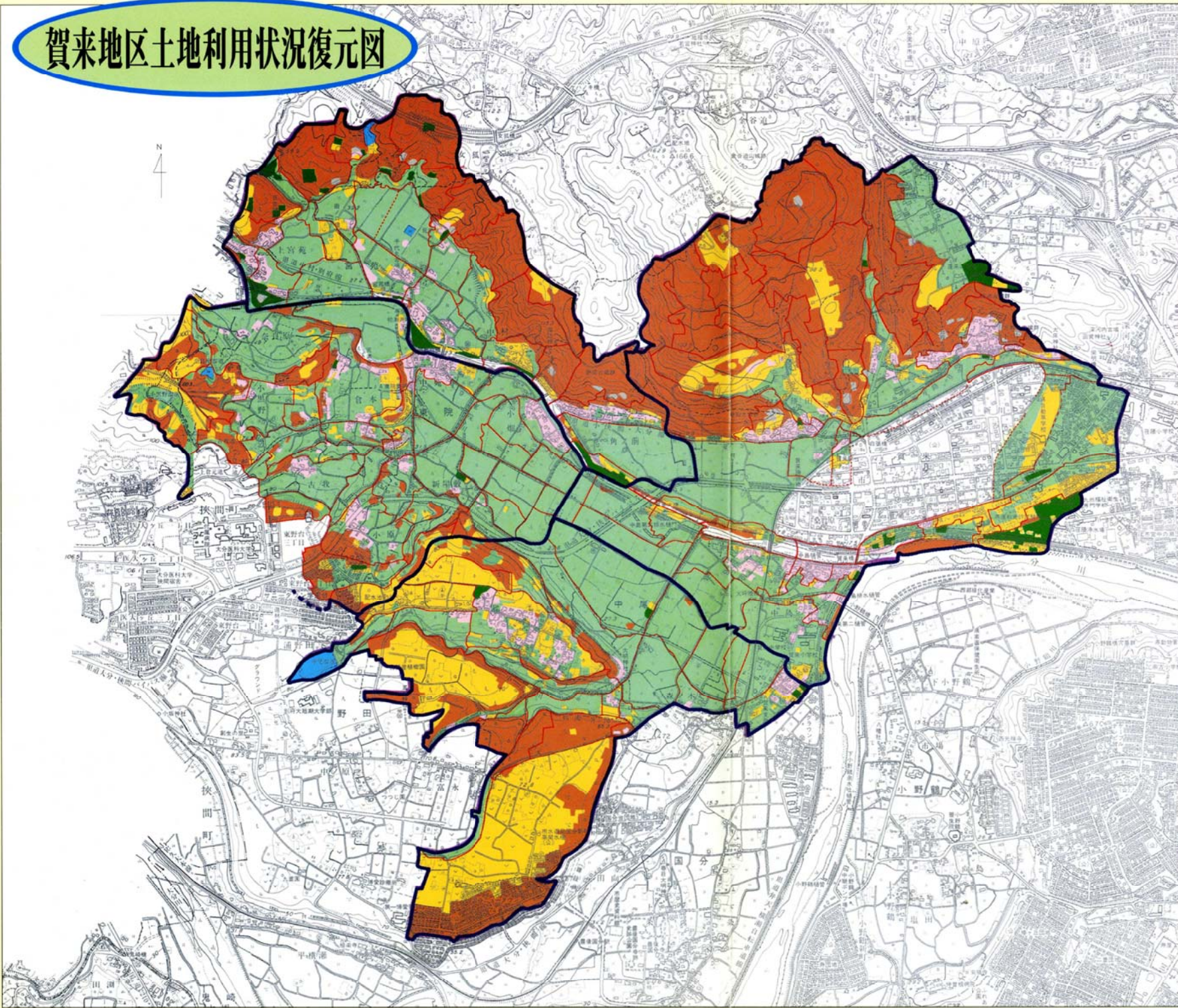
絵図に描かれた施設や寺社の修築は藩の普請方の責務であった。そして、これらの建物は安政元年の地震で被害を受けたはずで、絵図が普請方で作製されたのはその3年後である。これらをつないで考えれば、安政の地震後、普請方の管轄下で各施設と寺社の修築や再建が進み、それらが完了した時点で絵図が作製されたのではないのでしょうか。いわば、地震後修築事業完工記念として作製されたといえるでしょう。

松栄神社蔵 寺社及び藩施設絵図

1	圓寿寺絵図
2	浄安寺絵図
3	福寿院絵図
4	松栄山絵図
5	祇園宮・大山寺観音堂絵図
6	春日神社絵図
7	牧村久松庵庫裏・加納光西寺観音堂 高松地藏堂・西新地地藏堂絵図
8	船入倉・京泊番所絵図
9	仙石橋・春日浦御茶屋・船奉行居宅絵図



賀来地区土地利用状況復元図



この図は大字賀来・宮苑・東院・中尾について、明治22年作製の旧字図の情報をもとに、土地利用状況を復元したものの図です。ただ、色が塗られていない地区があります。ここはほぼ大字賀来の字車木・桑原・才賀にあたるのですが、すでに区画整理が行われ、地番も変更されているため、旧字図記載の地番が現在のどこか確定できず、色分けを断念したのです。傾向としては、桑原は宅地中心、車木と才賀は水田中心となっています。

この4大字は中世賀来荘の中心部にあたると考えられます。江戸時代はそれぞれ、賀来村・宮苑村・東院村・中尾村となっています。この図は明治22年時点の復元ですが、明治時代前半にはそれほど大きな開発は行われていませんので、少なくとも江戸時代末の土地利用状況一村の景観はこの図とあまり変わっていないと考えられます。

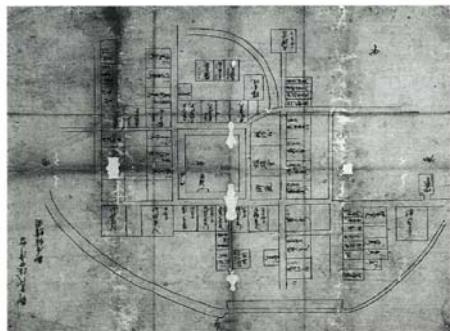
この復元図と現状を比較すると、大字賀来の一部が区画整理により住宅地になっているのが最も大きな変貌点です。その他、田畑が学校用地や宅地・道路となった場所がいくつかありますが、それほど大きな変化ではなく、景観的には明治時代ひいては江戸時代末の状況がおおむねよく残っていると言えるでしょう。問題はこの図からどれだけ中世の景観に遡れるかです。水かき調査の結果と合わせて考えれば、水田のあり方はそれほど変わっていないようです。残る大きな課題は集落分布の解明です。墓地や石造物の所在地などを関連させて考えなければなりません。それがある程度解明されれば、中世賀来荘の景観はかなり復元できるでしょう。

凡例	
— 大字堺	畑
田	山林
宅地	溜池
埋葬地	藪・刈敷場

高崎城と市内の山城(8) 中津留御屋敷

中津留館は、後の府内藩主松平忠昭が、速見郡亀川から寛永12年(1635)12月移住して翌年館邸を建てたもので、寛永19年高松に移るまでの約8年間支配の中心となった所である。

昭和6年当時の現状は、「現地に就いて見るに、館邸の遺址と思はれる場所は、方形に近き城内なる字名となって居る。…此の字城の内の地勢は、…一帯に他よりも隆起している。而して西境は南北に亘る約幅六間位の窪地が歴然と残って居る。而も此の窪地の部分は大字今津留字堀と称して居るのを見たと確かに古地図に記せる西側の壕址である。これに次いで壕址の稍窺はれるのは南のものであるが、…旧壕址の境界が明かでなく、北側も亦あまり判然しない。…その館址と推測される部分を測定したのに、壕の内側は東西約八十間、南北約七十間となり、それを約五・六間



中津留御屋敷絵図

幅の濠が取り囲んで居たのであるから、相当広い邸であった訳である。」(豊府古蹟研究4)であった。

明治期字図によれば、旧津留村に字城ノ内、その西となりの旧今津留村に字堀があり、堀に囲まれた方形区画が示されている。堀址は字図によっても西南東側三方は明瞭に認められるが北側は明かでない。明瞭ないが、字城ノ内北側の小径の内側(南側)に堀が存在したと思われる。この字図を現在の地図と重ねあわせると、館跡は今津留3丁目にあるOBS大分放送を中心とした約150m四方の範囲に存在していたと推定される。

当館蔵の絵図によれば、館の北に福寿院、東方に浄安寺が、館周囲に家臣の屋敷が描かれている。家臣の屋敷割は字図では明確にすることは出来ないが、福寿院は館の北側字塔ノ前にある埋葬地付近、浄安寺は字地藏前付近、現在の津留小学校東側で、身代わり地藏の南側一帯に存在した事がわかる。

絵図や字図に見える天神宮は区画整理まで当該地に存在していたが、現在は東側の津留公民館西隣に移転している。



中津留館周辺字図

らん 蘭 ごと 語 やく 譯 せん 撰

本書は、中津藩5代藩主奥平昌高(1781-1855)によって文化7年(1810)江戸で出版された日蘭辞書で、通称「中津辞書」とも呼ばれています。オランダ語書名を「Nieuw Versameld Japansen Hollandsch Woordenboek」(新集日蘭辞典)といい、「蘭語譯撰」の書名は、棠亭(昌高の号)の記す凡例に「姑クコレヲ題シテ蘭語譯撰トイフ」とあることによっています。長崎のオランダ通詞馬場佐十郎によるオランダ語の序文によれば、同書は、当時幕府の御用で江戸に来ていた佐十郎に昌高から依頼があり、彼が記憶している単語を中津藩士神谷弘孝(カニヤヒロタカ)に書き取らせ、これを昌高自身が編集したものと述べられています。本文には、イロハ引きで7072の語句が天文・地理・数量・衣服・飲食・動物・植物などの19部門に分けられて収録され、その中には「Maakt de thee 茶ヲコシラエヨ」、「Is de thee al gekookt? 茶ハモハヤ煎タルカ」といった会話表現もみられるなど、江戸時代に刊行された日蘭辞書としては最も充実したものといわれています。また、収録された漢語や漢字には、俗語・平話によるルビがほぼ全語にわたって付けられており、国語学資料としてもこんにち大変注目されています。

ところで、同書は、現在確認されている範囲で、国内の公的機関で8ヶ所程に所蔵されているのみで、大変希少な本の一つとして知られています。現存するそれらによると、同書は、外見上大きく①2巻2冊本、②5巻5冊本、③5巻1冊本の3種類に分類するこ

とができます。②・③には一部オランダ語などに訂正のあとがうかがえることや、③は②を合冊にし洋装本1冊に仕立て直したものであることから、当初①が出版され、その後、②、③の順で改訂版が出されたものと考えられています。また、②は、遅くとも文化12年までに刊行されていたことも分かっています。5冊本からなる本書は、上記②のタイプにあたり、『蘭語譯撰』としては整備された内容を伝えており、全体の装丁(濃紺の表紙にオランダ語書名を印刷した題簽を貼り、製本では洋装形式の包背装を用い、左端3ヶ所を鉄止めする)も出版当初の形態をよく留めています。巻末には「小林冬溪」なる彫師の名前もみられ、出版においては、まず匡郭罫と訳語を製版で摺り、その後オランダ語と各部門の単語を木活字で摺るという二度摺りが行われており、かなり手間を要したことも分かります。中津藩では、文政5年(1822)に、『蘭語譯撰』の続編ともいわれる蘭日辞書「バスタード辞書」も刊行しており、これら一連の出版は、藩財政に大きな負担を強いたといわれています。このようにして出版された『蘭語譯撰』は、シーボルトなどにより国外にも持ち出され、ヨーロッパで最初の日本学講座教授ヨハン・ホフマンの日本語研究や、メドハーストによる世界初の英和・和英対訳辞書『英和和英語彙集』(1830年刊)の編纂にも活用され、こんにちの「国際交流」に大いに寄与した本としても高く評価されています。

